

理研会報

発行日：平成31年3月22日
号数：No. 397
発行：印旛地区教育研究会理科研究部
HP：<http://rikainba.com>
メール：rikainba@yahoo.co.jp



年度末は人事異動の時期。理科研究部の理事の先生方の中にも今年末をもってご勇退される先生方がいらっしゃいます(右記参照)。理研会報361号では、5名の先生を代表して山本正之先生、梅里之朗先生、佐久間保男先生からメッセージいただきましたので掲載いたします。

本年度退職される理事の先生方
佐倉市立佐倉小学校長 佐久間保男先生
富里市立富里第一小学校長 梅里之朗先生
印西市立船穂中学校長 山本正之先生
佐倉市立井野小学校主幹教諭 吉野信之先生
八街市立八街南中学校教諭 佐久間良久先生

印教研理科研究部のますますの発展を祈って

印西市立船穂中学校 山本 正之

本年度、印教研理科研究部の部長という大役を仰せつかり、皆様のおかげで何とか職責を全うすることができたのではないかと考えています。いたらない点多々あったと思いますが、皆様のご支援・ご協力により1年間の理科研究部諸行事をこなすことができました。改めて、感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

なお、理科研究部の3つの柱、印教研集会、理科作品展、各部会の実技研修会と、千葉県教育研究会理科教育部会研究発表会への参加、また、本理研会報の発行におきましては、皆様の御協力あってのものと考えています。今後もよろしくお願いします。

印教研集会は、各部会とも研究員のみなさんの活動・継続研究そして各部会の理科研究部の先生方のご協力で成り立っています。多くの先生方が研究に携わり、研究発表につながられています。みなさんのご努力に敬意を表するとともに今後さらなる研究の深まりを期待しております。なお、研究員の先生方の度重なる会合では、研究の本筋に迫る討議も当然のことながら、日々の実践におけるささやかなアイデアの出し合いなども貴重な情報源になっていると思います。また、普段の授業で先生方が悩んでいることなどを出し合うことで生きた研究になってくると思います。余談になりますが、自分自身の経験と本校若手職員の実践より、簡単に生徒の興味関心を高めるためのネタ(装置)を3つ紹介します。1つめ、「電気パンの作成」(牛乳パックの底の部分を使い、ステンレス電極とホットケーキミックスをその中に入れ、100V電源に接続。かつて入試問題にも出題。)、2つめ、「ドローンの活用」(天体、音の実験、ペットボトルロケット等上から観察する。ともかくドローンに興味関心。)、

3つめ、「スモークマシンの活用」(ポリバケツ空気砲。前線の実験。1万円程度の装置で工夫しだいでいろいろ使える。余計なことだが、予餞会にも。ただし、煙探知機はビニール等でふさぐこと。)など、どうかお試してください。

次に、理科作品展ですが、去年は、小学校科学工夫作品の部で、千葉県総合教育センター所長賞の受賞をはじめ、小学校で計5作品、中学校で4作品、また、科学論文の部で小学校5作品、中学校5作品が県展での入賞を果たしました。さらに、教職員自作教具の部でも2名の先生が入賞しました。大変素晴らしい成果だったと思います。自由研究指導法研修会の開催や先生方の日々研究の大きな成果だと思えます。今後、さらに県展さらには全国展等で入選できるようご指導をいただければと思います。

各部会で企画された実技研につきましても、各部会とも大変有意義な研修になったことと思えます。実際に参加させていただいた、3部会の実技研修会では、県中央博物館の生態園のフィールドワーク、植物検索アプリの活用等、実物とITの融合を実感することができました。かつて同じ生態園で行ったフィールドワークを思い出したこと、かつてはなかったツールが自分の中で入り交じり複雑な思いになったのも事実ですが「日々研修」を強く思いました。毎年できるだけ多くの先生方に実技研にご参加いただき、先生方のスキルアップにつながられますよう、よろしくお祈いします。

そして、11月16日に開催されました千理研東総大会では、提案された先生、司会の先生そして一般会員としてご参加いただいた先生方に大変お世話になりました。来年度は、柏大会となります。理科研究部の先生方のご参加につきましても、どうかよろしくお祈いします。

最後に、改めまして、印教研理科研究部のますますの発展をお祈りし研究部長の挨拶とさせていただきますとともに、38年間お世話になりました理科研究部の皆さん、諸先輩方へのお礼の言葉とさせていただきます。本当にありがとうございました。



「科学と芸術の小さな家」で・・・

富里市立富里第一小学校 梅里 之朗

「科学と芸術の家」を創っています。家一軒を丸ごと使い、科学と芸術を学べる場所です。校長として3年間、学校経営に当たってきました。その間、校長室が徐々に科学と芸術の部屋に変貌していきました。ロケット・飛行機・ドローン・ロボット・・・、ミジンコ・ナナフシ・昆虫標本・・・、そして、子どもたちの描いた絵や創った工作・図工作品が並ぶようになりました。不登校の子どもが校長室でロボットを組み立てる、ADHDの子が生物の学習をするようになる、校長室が学校の教育資源の一部として機能し始めました。

*もちろん、校長室本来の機能は別にありますが・・・。

定年退職の期日が迫ってきたとき、この校長室の機能を活用する方法がないかと考えました。富里市には、学校に適用できない子どもたちがたくさんいます（他の市町の約2倍）。そこで考えたのが「科学と芸術の家」です。ここは学校教育では救えない子どもたち、学校に適用できない子どもたちが自由に学べる特別な場所です。不登校でも、生き物たちの生態に関心を持ち、印旛郡科学工夫作品展・標本の部で金賞の受賞した子がいます。教室には入れなかった子でも、理科に関心を持ち始め、家で教科書を見ながら予備実験をする子もいます（理科のテストはほぼ全て満点）。そんな子どもたちと接していると、子どもたちの隠された才能を開花させる手段として、理科教育の可能性を感じています。そして、音楽や図工・美術の力も・・・。

科学だけでなく、音楽や美術の世界でも活躍した偉大な科学者レオナルド・ダ・ヴィンチにあやかり、この家に科学と芸術の小さな家「ダ・ヴィンチ・カシータ」と名前をつけました。

*本年は、ダ・ヴィンチ没後500年です。

皆さんが退職した後、時間と健康と意欲があれば、ぜひ力を貸してください。子どもたちのために、一緒に活動しましょう。

*ホームページも立ち上げます。よろしくお願いします。

理科学研究部の皆さんへ

佐倉市立佐倉小学校 佐久間保男

理科学研究部との出会いは、初任の学校でのこと。きっかけは、校長先生・教頭先生が理科学研究部に入っていたため、参加したのが「印教研理科学研究部」でした。初任から数年間、訳も分からずに参加して、学校では理科の授業を行っていたと思います。自分では、やっているつもりになり独りよがりのものであったと思います。

ある校内授業研究会での協議会で、講師の先生からの第一声が、「先生の授業では子供たちが、理科を嫌いになってしまう」という大変厳しい言葉でした。30年以上経った今でも、当時のことは鮮明に覚えています。「授業で一番大切な、大前提がわかっていない」という言葉が続きました。教材の捉え方や既習事項の理解の度合い、生活経験との関連等、様々な部分で不足していたためでした。何より、自分自身が理科教育とは何かということを曖昧に捉えていたためだと思います。

子供の「考えを生かす」とは、言葉では簡単ですが、理科教育においては、小学校であれば「自然に親しみ」、中学校であれば「自然の事物・現象に関わり」ということが、大前提になります。この部分を十分に意識し、取り組んでいかなければ理科教育の本質から離れ、次世代を生き抜く子供たちの育成は困難であると、私は思います。

先生方の英知を駆使し、常に自然と対話することができるような、児童生徒の育成を目指していくことを願っています。

お知らせとお願い

- ・例年新年度の印教研総会の後の懇親会が、歓送迎会を兼ねております。今回メッセージを掲載できなかった諸先輩方からお話をうかがうチャンスです。多くの先生方に参加していただくと幸いです。よろしく願いいたします。
- ・学校現場を離れ行政等に異動された先生方が把握しきれず、ご迷惑をおかけすることがあります。大変お手数ですが、異動先を理科学研究部へお知らせいただくと助かります。理科学研究部へのメール (rikainba@yahoo.co.jp) または成田小学校 (TEL 0476-22-1334 FAX 0476-22-1335) 伊橋まで直接お知らせください。ご協力お願いいたします。

理研会報も本年度の最終号となりました。発行が遅れたことをお詫びいたします。多くの先生方に記事をお寄せいただき、理研会報を発行できました。今までのご協力に感謝いたします。ありがとうございました。来年度もよろしく願いいたします。